

## 組織目標評価報告書（令和5年度）

12

部局名:

医学部医学科

学域名:

医歯薬学域(医)

部局長名:

豊岡 伸一

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(2-1) (3-1) (7-1) (3-1)	<p>・2024年度の医学部医学科(一般枠)の志願倍率は3.1倍と昨年度より0.3ポイント上昇し、これまで改善を重ねてきたオープンキャンパスや高校生向けメディカルスクールなどの取り組みの効果が一定程度現れたと考える。今後は、大学案内やホームページをはじめとする広報の訴求力をより高めるとともに、文科省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」で連携3大学と実施しているWeb合同説明等を推進し、医学科の取り組みをより多くの高校生に周知させる。</p> <p>・今年度に受審した医学教育分野別評価(2巡目)では、授業や教育プログラム評価については、医学科IR室とのさらなる連携と、より組織的なマネジメント体制の整備が求められており、今後は教学マネジメント体制の持続可能性をさらに高める方策を実施していく。</p> <p>・先述した医学教育分野別評価では、複数の「部分適合」と評価された箇所が見られたものの、総括としては無事に認証を得ることができ、当初の目標である「医学教育分野別評価基準日本版 世界医学教育連盟(WFME)」のグローバルスタンダードに則った教育課程編成・実施方針の点検・評価・改善を行うことができた。</p> <p>・今年度は、医療教育センター多職種連携医療人材教育研究部門の主導により、医歯薬の3学部4学科による合同授業の設計に関する会議が複数回持たれて枠組みが設定された後に、具体的実施チームの編成と実務的な会議が持たれた。その結果、次年度4月に1年次向け合同演習、9月には3-4年次向け集中授業がそれぞれ計画されるなど、順調に目標が達成されている。</p>
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(13-1) (6-1)	<p>・医学科広報委員会を設置し、ホームページや学科紹介資料のさらなる充実に努めた。新聞等の報道を通じて健康に関する情報発信を行い地域の医療福祉の啓発を行った。</p> <p>・学外の基幹実習病院の外科指導医向けFDを開催し、AI活用による学生・若手医師指導の可能性について紹介した(学外より現地参加13名)。文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業の一環として地域医療に関する指導医講習会を開催した(現地参加4名、オンライン参加18名)。今後は、診療参加型臨床実習の充実を目的に、学外指導医向けFDの企画・開催をさらに加速させる。</p>
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(11-2) (15-1) (3-1)	<p>・医学科FD委員会を開催し、医療教育センターとの連携により新入職員向けFDセミナー及び医歯薬保・病院合同教職員向けFD・SDセミナーの開催を企画・運営するとともに、保健学科との合同によるAI活用セミナーの開催を実施した(2回実施)。</p> <p>・今年度に受審した医学教育分野別評価(2巡目)への準備作業を通じて、現行カリキュラム全体の点検と検証を行なったことで、教育業務効率化に向けたカリキュラム見直しの方向性が明確化された。今後は、今年度に策定した医学教育改革プランに基づき、さらなる教育業務の効率化を加速させる。</p> <p>・医歯薬学総合研究科附属医療教育センターとの連携により、センター内に「教育研究支援部門」及び「国際支援部門」を新たに設置し、医学部における海外派遣や留学生等の受け入れに関する窓口を明確にするとともに、「医師の働き方改革」への対応として基礎医学をはじめとする実習・演習における教育支援の体制整備にも取り組んだ。</p> <p>・今年度の医学部医学科は、若手教員(40歳未満)34名、女性教員7名を新規に採用した。従って、数値的には当初の目的を順調に達成できていると考える。今後見える形で研究・教育の場で活躍しやすい環境を引き続き整備していく。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。